



顔の化粧時間を節約できるまつげエクステ(東京都港区の「フォーラム美容院」)

伸ばしている。

時間短縮を訴えて、忙しい女性の心をつかんだ商品はほかにもある。例えば何工程にも分かれていたファンデーションや保湿といった化粧の工程が1回で済む化粧品「BBクリーム」。

韓国発のこの美容商品は手軽さと化粧の短時間化で忙しい女性の支持を集める。コーセーやドクターシーラボなど国内の化粧品会社も続々と参入しており、ここ数年で化粧品の1ジャンルとして確立した。

1万円で毎朝の30分を節約

毎月1回、30分～1時間ほどまとまった時間をかける代わりに、その後の日常の化粧時間を大きく削減できることで女性の心をつかんだ美容サービスもある。若い女性から主婦までと、幅広い層で普及しつつある「まつげエクステンション」だ。

上向きにカーブした人工まつげを、グルーと呼ばれる接着材を使ってまつげに装着する。まつげエクステを施しておけば、マスカラなどの化粧もせずにはばっちりした目元を約1カ月維持できる。

業界団体の日本まつげエクステンション協会によれば現在、まつげエクステサロンは全国で2000～3000店ほど。

「約1万円払って1時間かかる。それでも毎朝30分節約できると思えば安い」と東京都内在住の30代女性は語る。

目元だけでも整っていれば顔の印象は大きく変わる。「忙しくて化粧をする暇がない時でも、すっぴんで外出できるのは安心」と女心は繊細だ。

価値を見だしにくい時間を削る代表的なサービスに、家事代行がある。夫婦共働きや単身世帯が増えている現在、その需要は確実にある。米アイロボットのお掃除ロボット「ルンバ」が、国内で累計20万台を販売されたのも、そうした事情が背景にある。

だがこれまで家事代行の料金は、1時間当たり安くても3000～4000円で、1回当たり2時間が基本。最低でも1万円近くの料金がかかるため、継続的に利用できる層は限定されていた。

家事代行は高い……。そんなイメージを覆そうとする企業が現れた。昨年7月に設立されたベンチャー、イエノカカンパニー(東京都千代田区)だ。同社は家事代行を、今年夏からワンルームのマンションで1回当たり1980円で提供している。

対象は都内のワンルームマンションに住む男性の単身世帯。リビングの簡易掃除、ベッドメイキング、風呂、ト

イレ掃除、そしてゴミ出しが基本的なメニュー。

これを1回30分で提供し、月4回から5回利用してもらおう。「忙しくて家事をする時間のない30代、40代の単身世帯に使ってもらいたい」と小木曾大志・代表取締役は語る。

通常、家事代行サービスは2時間単位で提供されていたため、部屋の狭いワンルームの利用者にはコストが高止まりしていた。イエノカカンパニーの工夫は、こうした消費者の需要に合わせて提供時間を30分に設定したところにある。基本的な作業に特化することでコストと時間のパフォーマンスを両立させた。

サービスの提供を始めて約半年、現在は個人の注文よりもマンションのオプションサービスとして利用されるケースが中心を占めている。それでも消費者の生活時間に合わせたサービスに需要があることは裏づけられた。

「今後は女性の進出が加速して、『家事イコール主婦』という観念が確実に消えていく。単身世帯の高齢者も増えており家事代行サービスは需要増が見込める」と小木曾氏の夢は膨らむ。

知らぬ間に効果

美容器具「スチーマーナノケア」
電動歯ブラシ「ドルツ」

面倒で退屈と感じる作業を削り、有意義なことに時間を振り向けたい。その要求を満たす方法は、ほかにもある。そのための時間を使っているという意識を持たせずに、その便益を実感してもらおう工夫だ。

消費者にとっては現在に加えて、も